

## 第2章 平成24年度(2012年度)の実施状況

### 1. 子どもと本をつなぐ地域交流会

パート1 平成24年(2012年)11月15日(木) 午後2時～4時 (その後意見交流)  
野畑図書館 集会室にて

▶ 参加者 52人

▶ 内容 「子どもと本を楽しもう！」というテーマで地域や家庭、地域の公共施設、保育所(園)・幼稚園、学校、市立図書館、外国人の子どもや障害のある子どもという6つの領域のそれぞれにおいて、子どもと本をつなぐ取組みに関わっている人をパネラーとして迎えたパネルディスカッションを実施しました。また、情報共有について工夫していることと交流会をその場かぎりにしないためのアイデアを出し合いました。そしてそれらのアイデアを自分たちで実践していただくという「宿題」を出し、パート2でその結果の報告をお願いしました。さらに、この交流会をきっかけに人と人がつながっていくことを願い、参加者に「自己紹介カード」への記入をお願いし、全員分をその場で印刷して綴ったものを各自持ち帰っていただきました。



パート2 平成25年(2013年)2月1日(木) 午後2時30分～4時30分  
中央公民館 集会場にて

- 参加者 49人
- 内容 パート1と同じテーマで会場を市の中部にある中央公民館に変え、パネラーもパート1とは違う人を迎えて実施しました。パート1で出された「宿題」すなわちパート1で出されたアイデアや工夫をその後自分の団体でどのように実施したかについての報告がなされました。パート2でもパート1と同様、参加者に「自己紹介カード」への記入をお願いし、全員分をその場で印刷して綴ったものを各自持ち帰っていただきました。

パネルディスカッション



各領域での  
実践例の紹介



取組みが続いて  
いくための方法  
について投票し  
ています。



自己紹介カードで  
紹介された絵本の  
展示も行いました



	パート1	パート2
日時	平成24年（2012年）11月15日	平成25年（2013年）2月1日
参加者の おもな構成	読み聞かせボランティア、学校・公共図書館の絵本勉強会チーム、おやこでにほんごなどからの交流会参加者52名（うち、パネリストとコーディネータとして子ども文庫、保育師、幼稚園園長など7名）	読み聞かせボランティア、学校・公共図書館の絵本勉強会チーム、おやこでにほんごなどからの交流会参加者49名、（うちパネリストとコーディネータとして読み聞かせボランティア、子育て支援センター保育師、幼稚園園長など7名）
内容	6つの領域の事業に関わる人をパネリストとして、パネルディスカッションをメインに行う。パート2についても同じ内容で人を変えて行った。これまでの班に分かれてのグループワークは全体での共有が課題となっていたため、パネルディスカッションと参加者からの発言という形ですすめる。	パート1と同様に、6つの領域の事業に関わる人をパネリストとして、パート1とはパネリストを変え、パネルディスカッションをメインに行った。パネルディスカッションと参加者からの発言という形ですすめる。
テーマ	情報共有について工夫していること、交流会をその場限りにしないためのアイデア。	パート1をうけてやってみた取組み、やってみてどうだったか。
当日の パネリスト、会 場からの声	ブログを開設している（情報共有）	インターネットで絵本の情報交換会。→勉強会に参加しているメンバーだけではなくほかの人たちのコメントもみることができるので参考になります。
	掲示板を作る（アイデア）	掲示板を作った。→ボランティアや団体の活動を広く知ってもらえることができたと思う。
	絵本の交換会・提供会（アイデア）	図書館の集会室を借りておはなし会の選書、プログラム作り→グループ内の親睦もはかれてよかった。

## 次年度に向けて

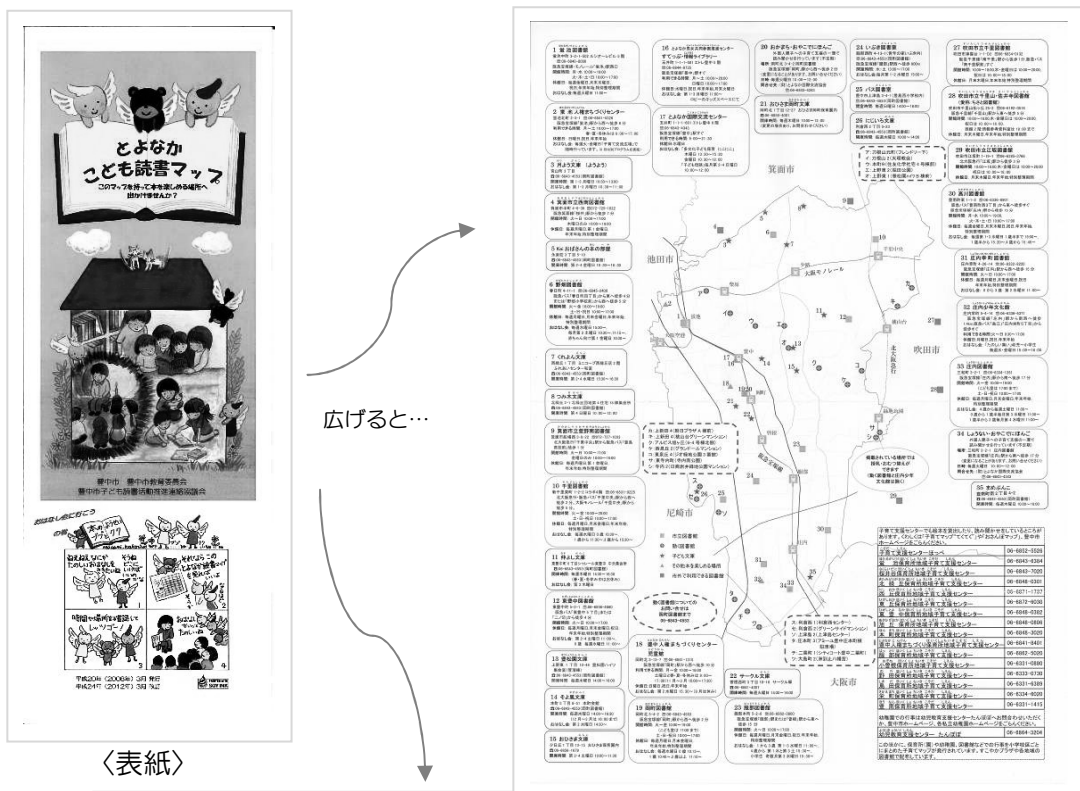
24年度の子どもと本をつなぐ交流会においては、情報共有についてのアイデアを出し合い、そのアイデアをそれぞれの活動の中で実施することができました。また、このような交流がその場限りで終わらないために、それぞれの団体がそれぞれの立場で地道な活動を続けていくことを確認しました。

次年度は、24年度に出されたこれらのアイデアを実践しての成果の発表の場として、また地域で子どもや本に関わる人たちとのつながりがさらに広がり、子どもの読書環境が一層整っていく機会として、この子どもと本をつなぐ交流会を開催したいと考えています。

## 2. 「とよなかこども読書マップ」

子どもたちが身近なところで本に親しめるよう、市内で本が借りられるところやおはなし会を実施している施設や場所などの情報を集めて「とよなかこども読書マップ」を作成しました。市立図書館、子ども文庫、人権まちづくりセンター、すてっぷ、とよなか国際交流センターなど35か所の施設や場所を掲載しています。

23年度版からは各施設や場所で行われている子ども読書の取組みも写真で紹介しています。A3サイズ、四つ折り。1万四千部発行。



〈表紙〉

冊中では、赤ちゃんから10代の若者（YA世代）まで、すべての子どもがいつでもどこでも読書を楽しめるような環境づくりに取り組んでいます。ここではそのなかの一部をご紹介します。

おはなし会や読み聞かせのイベントは、読書を通して、親子の絆を深め、子どもたちの読書への興味を喚起しています。

図書館で読める「すてっぷ」や「子ども文庫」では、赤ちゃんから10代の若者まで、すべての子どもがいつでもどこでも読書を楽しむことができます。

子どもセンター、図書館、公民館、市民センターなどで、おはなし会や読み聞かせのイベントを行っています。

「とよなかこども読書マップ」は、子どもたちの読書への興味を喚起し、読書を通して、親子の絆を深め、子どもたちの読書への興味を喚起しています。

このマップは、読書を通して、親子の絆を深め、子どもたちの読書への興味を喚起しています。

お問い合わせ先：とよなかこども読書マップ事務局  
TEL: 06-6842-4500 FAX: 06-6841-3400  
Eメール: toyonaka@toyonaka.or.jp  
ホームページ: www.toyonaka.or.jp

### 3. 領域ごとの取組み

領域ごとの全体の事業数と新規事業数とともに、その実施事業数の取組み状況を一覧にしたものです。(詳しくは 24 ページ～64 ページをご覧ください)

#### 3-1 事業の取組み状況

領域	全体の事業数	平成 24 年度 (2012 年度) 実施事業数
1 家庭・地域	22	21
2 地域の公共 施設	34	27
3 保育所 (園)・幼稚園	22	22
4 学校	20	20
5 障害のある子どもや外国人の子ども	27	25
6 市立図書館	38	38
計	163	153

\*平成 24 年度からの新規・追加事業はなし (第 2 期実施計画に未掲載のもの)

終了事業は 3。(幼児教育支援センターたんぽぽがてしま幼稚園地域子育て支援センターへ移行したため)